

# ふくい 社会福祉

2023  
11  
No.463

Fukui Social Welfare



## こころでつながろう! 福井

福井国際フェスティバル2023で、タイ介護技能実習生がタイ舞踊（ラムタイ）を披露するとともに、タイの文化を紹介しました。（8ページに関連記事）



## CONTENTS

### 2,3P 特集 業務継続計画（BCP）策定待ったなし

4P 報告

◆ 第70回福井県社会福祉大会

5,6P 報告

◆ 「福井県社会福祉協議会会長表彰」被表彰者  
◆ 「福井県共同募金会会長表彰」被表彰者

7P

連載「みんなdeつながろう!」vol.5  
◆ 羽二重ねっと

8P

募集 ◆ タイ人技能実習生受入施設募集  
報告 ◆ 技能実習生が県民に  
タイの文化を紹介

9P

報告 ◆ 全国健康福祉祭愛媛大会  
広告 ◆ ボランティア保険

10P

案内 ◆ 福井県立盲学校入園・入学希望者募集  
報告 ◆ 寄付・寄贈



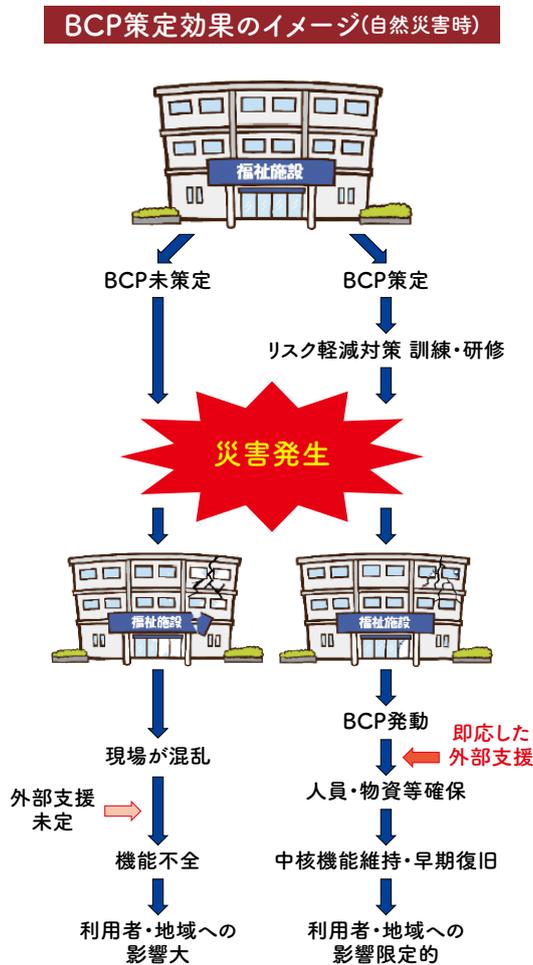
# 業務継続計画（BCP） 策定待ったなし

令和6年4月完全義務化 介護・障がい福祉サービス事業者対象

社会福祉施設は地域におけるセーフティネットの一つとして重要な役割を担っています。災害時に要配慮者を受け入れる福祉避難所に指定されている施設も多く、その機能を維持することが求められています。こうした背景を踏まえ、令和3年度の介護と障害福祉サービス等の報酬改定により、介護や障がい福祉サービス事業者等を対象に、令和6年4月までに業務継続計画（BCP）を策定するよう義務づけられました。完全義務化が来春に迫る中、県内の関係事業者も対応が急務となっています。

## 機能停止の回避目指し

もしも大地震の直撃を受けたら…。もしも豪雪に見舞われたら…。防災対策は災害を知り、被害を想像することから始まる



と言われます。

前出の自然災害は▽福井地震▽三八豪雪▽五六豪雪▽福井豪雨をはじめ、過去に県内で何度も発生しています。福井地震をリアルタイムで知る世代は少なくなってきましたが、

事業の継続に関わるリスクは、自然災害だけではなくありません。社会生活を激変させた新型コロナウイルス等の感染症やテロ、システム障害から取引先の倒産などに至るまで多岐にわたります。厚生労働省はこのうち、自然災害と感染症に関するBCP策定のガイドラインとひな型を示し、関係事業者に対応を求めています。

自然災害に関するガイドラインでは、リスクの把握として被災想定から始まり、優先すべき業務の選定、平常時の対応として建物と設備の安全対策や電気・ガス・水道が止まった時の対策、

## 多岐にわたるリスク

五六豪雪や福井豪雨はまだ記憶に新しい人も多いのではないのでしょうか。「天災は忘れたころにやってくる」。物理学者で随筆などの作品も多く残した寺田寅彦による有名な警句ですが、それともはや「死語」とされるほど、近年は毎年のように全国各地で大規模災害が発生しています。

防災・減災のための取り組みはますます重要になり、この点で経済・社会活動の維持と早期復旧を目指すBCPの策定が必須とされるようになってきています。特に社会福祉事業は、様々な配慮や支援を必要とする人たちにとってのセーフティネットのひとつになっていくだけに、その機能が停止することは避けなければなりません。

必要品の備蓄などを挙げています。また緊急時の対応として、職員の行動基準や安否確認、参集基準、避難方法、復旧対応などに加え、他施設や地域との連携も盛り込まれています。

感染症に関するBCPは、新型コロナウイルス対策で既に整備されているマニュアルをベースに、職員の確保や体制の整備、業務の優先順位の整理などを拡充する手法を探ることで、比較の取り組みやすいといわれています。自然災害対策のBCPと比較して、リスクの想定が絞られる半面、情報の迅速・正確な入手と的確な判断、長期化も想定した職員体制の確保が重要となります。

## 厚生労働省のBCP策定 支援サイトはこちらから

	介護事業者対象 (自然災害・感染症)
	障がい福祉サービス事業者対象 (自然災害)
	障がい福祉サービス事業者対象 (感染症)

## 対応に苦慮も熱意

BCP策定の猶予期間終了まで半年を切り、県内の関係事業者からは対応に苦慮しているとの声も聞かれます。

福井県健康福祉部長寿福祉課によると、これまでに介護事業者を対象に実施した策定状況調査でも、「作る時間がない」「ひな型を利用して作ったけれど、うまくいくか不安がある」などの実情が浮き彫りとなっています。

その一方で社会福祉法人の経営者や防災担当者らが、研修会などで顔を合わせると、BCPを話題にする場面も見られます。熱心に情報交換する姿からは、ひな型を単に形式を整えるだけでなく、少しでも効果のあるものにしたという思いが伝わります。

### ■ 災害時の福祉の拠点に

福井市内で指定介護老人福祉施設など7事業所を運営している弥生福祉会では、BCPの重要性を認識し、約8年前から検討と準備に着手。策定が義務化された令和3年度からは本格的に取り組みを進めています。専門家の指導を仰ぎながら策定と見直しを重ね、最新版として今年4月に自然災害と感染症対応の2つのBCPを取りまとめました。

複数の事業所を運営している背景もあり、小川弥仁理事長は「入所系と通所系では安否確認の仕方一つをとっても違いがあり、苦勞したこと

訴えています。

備蓄品の量と質の向上などに加えて、特に重視しているのが指揮系統の確立です。「それぞれが良かれと思っ

てやっても、てんでんばらばらではだめ」。小川理事長は、トップや責任者が指示を出せない事態に陥った時に、順次その役割を果たせるようにしておくことの必要性を強調します。

### ■ フォローアップも

BCPの策定義務化決定以降、関係機関や種別団体ではBCPに関する研修会を開催しています。県社協は、今年度も8月と10月に社会福祉法人の経営者らを対象にしたセミナーを開催し、BCPをプログラムに盛り込むなど、福祉事業者のBCP策定を支援しています。また、県長寿福祉課では、11月にBCPに基づく訓練と計画見直しに主眼を置いた研修会を計画。BCP策定後のフォローアップにも力を入れています。

同課は「厚労省が公開しているひな型を活用する等してまずは策定し、見直しをすることで、各事業所により適した内容としていくよう呼び掛けていきたい」としています。

## 災害対応など学ぶ

### 福祉施設防災マネージャー養成研修

#### 災害に強い福祉施設づくりのための経営者セミナー

福祉施設防災マネージャー養成研修と災害に強い福祉施設づくりのための経営者セミナーは、10月に県社会福祉センターで開かれました。県内福祉施設の経営者や防災担当者ら22人が受講し、東日本大震災時の現地福祉施設の事例を学ぶなどして、自施設における自然災害への備えと被災時の対応について考えました。

防災マネージャー養成研修は3日間、経営者セミナーは1日の日程で、特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーボード理事で社会福祉法人東北福祉会法人本部事務局次長の野田毅氏が講師を務めました。

19日は受講者が4組に分かれての演習があり、自施設の災害対策の現状や必要と感ずる対策などについて情報交換するとともに、BCPを作る意義などについて意見交換しました。また、東日本大震災で被災した福祉施設の事例を踏まえて、マニュアルの整備と

臨機の決断、外部からの支援を受ける体制づくりの重要性などに対する意識を高めました。

野田氏は、過去の事例を知って自施設に置き換えて考え、訓練と見直しを重ねることで、個々の施設に合った災害対策の実効性を上げていくよう呼び掛けました。

2日目は福祉避難所の運営と支援、BCP策定のポイントをテーマとした演習がありました。受講者は、自施設が被災した場合に緊急対応と復旧に向けた対応についての業務と課題を検討しました。野田氏は、BCP策定の考え方と手順について、例を示しながら解説。単に出来上がったBCPを周知するのではなく、策定するまでの過程も含めて職員間で共有するようアドバイスしていました。

最終日は、普通救命講習があり、福井市中消防署員の指導で、のどに詰まった異物の除去や心肺蘇生の方法、AED（自動体外式除細動器）の使い方を学びました。



# 安心して暮らせる共生社会実現に向けて関係者が決意

去る11月11日(土)、福井県生活学習館(ユウ・アイふくい)にて、第70回福井県社会福祉大会が開催されました。今年度は4年ぶりに参加者の制限を行わず、被表彰者、主催、来賓、一般参加者等約480名の参加を得ての開催となりました。

まず、社会福祉の様々な分野で長年活躍され、福祉向上に寄与された282人と18団体の方々に、県社協の小藤幸男会長から功績を称える表彰が行われました。また、70回大会を記念して、過去10年間において継続的に本県の社会福祉活動に協力、援助された団体等に特別表彰・感謝状も贈られました。

また、県共同募金会の清川忠会長からは、永年にわたり共同募金運動に貢



主催者を代表してあいさつする小藤幸男会長



表彰式典の様子

われしました。尾木氏は会場後方からのサプライズ登場で、参加者とハンドタッチしながら入場。ステージと客席を行き来しポストコロナ時代に子どもたちが生き生きと活躍できる社会づくりで何が大切か等、参加者に問いかけ、考える機会となりました。

献された6人・6団体への表彰が行われました。(被表彰者ご芳名は5、6頁に掲載)さらに、近年の社会的孤立等の様々な福祉課題や自然災害への不安、情報通信技術の進展で変化する社会の状況を踏まえ、関係者と県民が一丸となって地域共生社会の実現を目指す大会宣言が、70回大会を機に採択されました。



講演する尾木直樹氏

地域の活動に子どもたちの意見を積極的に取り入れ、子どもたちが主役になる居場所づくりが重要との訴えに、参加者はメモを取りながら熱心に聴き入っていました。また、ロビーでは、児童養護施設

## 第70回福井県社会福祉大会 大会宣言

本格的な少子高齢化・人口減少時代を迎えた今日、地域社会の担い手不足などにより、家族や地域における支え合い機能の低下が急速に進んでいます。

さらに、ここ数年我々の生活に大きな影響をもたらした新型コロナウイルス感染症は、人々の交流の機会を奪い、社会的孤立や生活困難世帯の増加など様々な福祉課題を生み出しています。

また、度重なる自然災害への不安から「支え合い」の重要性が再認識される中、情報通信技術 (ICT) の急速な進展で新たな「つながり」の形が生まれ、社会の基盤も大きく変わろうとしています。

第70回の記念大会を機に、福祉関係者と県民が一丸となって地域の福祉課題をまるごと受け止め、解決に向けて協働する社会、一人ひとりが互いを認め、尊重する社会づくりを加速させ、すべての県民が安心して暮らせる持続可能な地域社会の実現をめざし、その決意を次のとおり宣言します。

- 一、私たちは、すべての県民が地域の課題に目を向け、我が事として関わるができる【まちづくり】に貢献します。
- 一、私たちは、福祉の魅力や価値を高め、地域と福祉を支える【担い手づくり】に貢献します。
- 一、私たちは、既存の制度では対応しにくい生活課題に向き合い、つながりの力を活かして、支え合う【仕組みづくり】に貢献します。

や子ども食堂を利用する子どもたちからのメッセージ約200点を集めた企画展示「子どもたちの未来へ繋げる輪」も行いました。「将来の夢」「最近あったうれしかったこと」「子ども食堂で好きなメニュー」などをテーマに寄せられた子どもたちの思いとともに、子どもたちの夢や居場所づくりを応援する事業紹介のパネルに、多くの来場者が見入っていました。



子どもたちからのメッセージを集めた企画展





# みんなde つながろう!

このコーナーでは、県内の福祉活動に取り組み  
る皆様をご紹介します。

Vol. 5

第5回は、福井県域で活動している「福井県視覚障がい者支援ネットワーク羽二重ねっと」です。  
このネットワークは、見えにくい見えにくいことでお困りの方とご家族を支援するため、県内で視覚障がい者を支援する7団体・施設・機関が集まり設立されました。「羽二重ねっと」という名称には、本県の特産である絹織物の羽二重にちなみ、縦糸と横糸が交わりあい、しなやかに優しく包み込むように、視覚障がい者とその家族の生活すべてを包括的に支援するネットワークをという願いが込められています。



**Q** 団体を設立した経緯について教えてください。

**A** 人間は情報の約80%を視覚から得ており、目に障がいを持つと多くの情報が遮断されてしまいます。特に大人になってから見え方が困難になった場合、医療機関だけでは福祉や就労、教育などの十分な情報を得ることが難しく、社会から孤立した状況に陥りやすくなるのが懸念されてきました。

そうした視覚障がい者を「誰一人取り残さない」適切な情報提供に向け、それぞれの組織が分野を超え、相互に連携するための支援ネットワークを作る取組みが全国的に広がり、本県では福井県立盲学校を中心とする働きかけで「羽二重ねっと」が設立されました。



**Q** 皆さんの活動について教えてください。

**A** 医療・福祉・教育の各分野で連携し、視覚障がい者やそのご家族を適切な支援に繋げるための情報提供や相談対応を行っています。相談窓口には、これまで260名程度の方々から相談が寄せられ「話を聞いてもらえて楽になった」、「相談する場所があつて安心できる」などのお声をいただいています。

また、ホームページやSNSを活用した視覚障がいに関する情報発信や研修会の実施、学校への出前授業を行っているほか、コロナ前には、毎年PRイベントを開催し、視覚支援機器や盲導犬などの紹介・体験も行っています。



**Q** 活動を通して伝えたいことを教えてください。

**A** 今は見えていても、将来見えなくなってしまう方が「羽二重ねっと」を思い出し、相談いただけるよう、当団体の活動内容や視覚障がい者に関する情報は、健常者の方にこそ広く伝えていきたいと考えています。障がい者にとって、見えにくい、聞こえない以上に、暮らしにくい社会こそが障がいとなつていくことに、もっと多くの方が目を向け、「誰一人取り残さない」社会を目指し、支援の輪が広がっていくことを願っています。

クリアファイルを使って見えにくい世界を体験しよう!

福井県立盲学校  
YouTube  
チャンネル内



羽二重ねっと連絡先

TEL 0776-54-5280  
(福井県立盲学校内)

E-mail  
mail@habutae-net.jp

ホームページ





# タイ人技能実習生 受入施設募集



～2024年秋 入国予定者(第6期生)～

「明るい性格で、年配者に対する尊敬や思いやりに溢れる」  
タイ人介護技能実習生の受入施設を募集いたします。具体的な  
説明や相談等を希望される場合は、下記まで連絡ください。



**監理団体** 社会福祉法人 福井県社会福祉協議会  
(ふくい外国人介護職員支援センター)

**募集施設** 県内の介護施設・事業所 5施設・事業所程度

**技能実習生** タイ人介護技能実習生 10人程度 (18歳～20代前半)

**受入要件** (1) 原則として2人以上での受入れ  
(2) 基本的な受入期間は3年間  
(3) 日本人と同等以上の月給のほか、監理費が必要  
(4) 住居(寮)の確保等 ※詳細についてはお問い合わせください

これまでに受入れた  
タイ人介護技能実習生  
に関する動画はこちら  
からご覧になれます➡



## 県社協の取り組みの特色 (メリット)

- 介護現場に精通した職員が体制づくりからアドバイスを行い、外国人介護職員受入れの不安を解消
- 施設配属前には、県介護福祉士会と連携して介護講習を実施し、施設の実習にスムーズに移行
- タイ語の専任通訳職員が実習生とのコミュニケーションをフォロー
- 実習開始後も日本語上達に向け、独自の日本語研修を毎月開催

**問合せ先** 福祉人材課内「ふくい外国人介護職員支援センター」  
☎ 0776-24-0086 FAX 0776-24-0063 E-mail : kaigo@f-shakyo.or.jp

## 技能実習生が県民にタイの文化を紹介 ～福井国際フェスティバル2023に参加～

令和5年10月22日(日)、福井県国際交流会館において「福井国際フェスティバル2023」が開催され、昨年度に引き続き、タイ人技能実習生が華やかな民族衣装に身を包み、訪れる県民や福井県在住の外国人にタイの文化を紹介し、交流しました。

今年はフェスティバルのステージイベントで、大野和光園で実習を行うシノメさんと、ナーツさんが伝統的なタイ舞踊(ラムタイ)を披露し、観客の注目を集めていました。

また、他のタイ人実習生も会場に訪れ、お互いの近況を語り合うなど、実習生どうしのネットワークの広がりを実感する機会にもなりました。



最前列の2人が実習生(左:ナーツさん、右:シノメさん)

# 全国健康福祉祭(ねんりんピック) 福井県選手団入賞者

去る10月28日～31日に開催された第35回全国健康福祉祭愛媛大会本県選手団の入賞者を紹介します。

テーマ **ねんりんを重ねた愛顔伊予に咲く**  
派遣選手数 200名(美術出品者10名含む)



種目	チーム名・個人名	成績
マラソン70歳以上男子3km	下浜岩男	優勝
将棋(個人戦・①絆)	西谷祐二	準優勝
軟式野球(新居浜市営野球場)	福井オールスターズ	準優勝
水泳80～84歳男子自由形25m	山本厚生	2位
水泳80～84歳男子自由形50m	山本厚生	3位
水泳60～64歳女子背泳ぎ50m	岡田裕美	3位
サッカー(松山市北条スポーツセンター)	福井シニア	3位
ソフトボール	旭球友会	3位
囲碁(個人戦・ゆうすいブロック)	山森幹夫	優秀賞
ウォークラリー(かみりんコース)	エンジェル291	優秀賞
ペタンク	福井県	優秀賞
マラソン60～69歳女子10km	砂子睦美	優秀賞
ソフトバレーボール	福井ドリーム	優秀賞



日本画  
「平家落人伝説の里」



彫刻「哀歎」

## ねんりんピック愛顔のえひめ2023美術展

部門	賞名	題名	出品者名
日本画	愛媛県知事賞	平家落人伝説の里	岩永彰一
彫刻	愛媛県知事賞	哀歎	山本忠晴

※個人名の敬称は省略させていただきます。

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

令和5年度

# ボランティア活動保険

商品パンフレットは  
こちらから  
(ふくしの保険ホームページ)



### 保険金額・年間保険料(1名あたり)

団体割引20%適用済 / 過去の損害率による割増適用

ケガの補償	プラン		
	基本プラン	天災・地震補償プラン	特定感染症重点プラン
死亡保険金		1,040万円	
後遺障害保険金		1,040万円(限度額)	
入院保険金日額		6,500円	
手術 保険金	入院中の手術	65,000円	
	外来の手術	32,500円	
通院保険金日額		4,000円	
特定感染症	補償開始日から10日以内は補償対象外 <sup>(※)</sup>		初日から補償
地震・噴火・津波による死傷	×	○	○
賠償責任 の補償	賠償責任保険金(対人・対物共通) 5億円(限度額)		
年間保険料	350円	500円	550円

\*3月末までに契約手続きが完了し、前年度から継続して契約される場合は初日から補償します。

### <重要>

- ◆基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆特定感染症重点プランでは中途加入の場合でも補償開始日より特定感染症が補償対象となります。
- ◆年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
- ◆中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆途中でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。



### ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

### 送迎サービス補償

(傷害保険)

### 福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

### 団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課  
TEL: 03(3349)5137  
受付時間: 平日の9:00～17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)  
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

### 取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F  
TEL: 03(3581)4667  
受付時間: 平日の9:30～17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

〈SJ22-12223より抜粋して作成〉

# 福井県立盲学校 入園・入学希望者募集

## 見え方でお困りの方へ

福井県立盲学校では、見えない・見えにくい幼児・生徒を募集します。

マッサージや鍼灸（しんきゅう）の国家資格取得を目指す理療科も設置しています。理療科への入学に年齢制限はなく、過去には60歳代の方も卒業されました。

入園・入学を希望される方は、下記までご連絡ください。

**募集学部** 幼稚部、高等部普通科・理療科（鍼灸マッサージ師養成課程）

**入学条件** 視力や視野の障がいで見え方に困難がある方。詳しくはお問い合わせください。

**入学者選考** 令和6年2月頃(予定)



校章

福井県と関係の深い「雪の輪」に、点字の「六つの点」を分散させ、中央に図案化した「盲」の字を置いています。

校訓  
学びあい  
助けあい  
響きあい

幼稚部から大人まで幅広い学びあい」と障害を超えた「助けあい」、みんなが一体となつて奏でるハーモニー（響きあい）を表し、あいは「愛」と「eye」をかけています。



【問合せ先】 福井県立盲学校 TEL : 0776-54-5280

## 寄付 寄贈

心温まる寄付・寄贈に心から感謝申し上げます。皆様の善意は有効に活用させていただきます。

♥9月27日

**寄付者** 一般社団法人 生命保険協会 福井県協会 様

- 障がい者支援団体助成金 10万円
- エコキャップ 555,045個

**寄付先** 助成金：

社会福祉法人 福華会 水耕栽培事業所  
エコキャップ：  
福井県社会福祉協議会



♥10月16日

**寄付者** 明治安田生命保険相互会社福井支社 様

- 寄付金 31万5000円

**寄付先** 福井県社会福祉協議会  
「子ども未来応援バンク」

